第２次遠野市総合計画　前期基本計画(H28～32）

まちづくり指標平成28年度実績一覧

平成29年8月

遠　野　市

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	28年度 達成率	成果・評価	担当課
1 自然を愛し共生するまちづくり （23指標）	1	市民一人１日当たりのごみ排出量	g/人・日	883	目標値	850	842	834	826	818	概ね達成	98.8	一人１日当たりのごみ排出量は目標値に達成しなかったが、前年度と比較してごみ総排出量は390トン、可燃ごみは229トン減少した。可燃ごみと資源ごみの分別が徹底されたことで可燃ごみの減少に繋がった。 また、ごみの発生抑制や再生利用などが図られたことで、一人１日当たりのごみ排出量も減少傾向にある。今後も、循環型社会の構築と推進を図る。	環境課
					実績	860								
	2	市民環境団体登録数	団体	68	目標値	68	68	68	68	68	達成	104.4	自然環境保護団体４団体、こどもエコクラブ15団体、資源集団回収団体52団体が登録となっている。 今後も、継続して登録団体の増加を図る。	環境課
					実績	71								
	3	小中学校等の環境学習および環境活動の実施	回	76	目標値	77	78	79	80	81	達成	129.9	小中学校水生生物調査14回、こどもエコクラブの活動81回、清養園クリーンセンター・岩手中部広域行政組合への見学が５回の合計100回実施した。 河川の水質を判断する水生生物調査は、学校・児童館・児童クラブの夏の事業として定着してきている。平成28年度は、天候に恵まれず実施を見合わせた団体があったが、水生生物調査への興味関心は確実に高まってきていると感じる。 こどもエコクラブに関しては、年々サポーターの数が増加傾向にあり、それに伴い活動も活発化している。	環境課
					実績	100								
	4	公営住宅整備戸数	戸	—	目標値	—	—	10	12	5				建設課
					実績	—								
	5	快適住マイル応援事業申込戸数	戸	74	目標値	75	75	75	75	75	達成	118.7	平成22年度から実施し、７年目となる平成28年度は89件の申請があった。住宅リフォーム、水洗化工事費用の助成により、市民の快適な居住環境が整備されるとともに、市内の工務店や商店等の経済活性化に寄与した。 今後も、快適スマイル応援事業の活用ＰＲと併せて、他の住宅関連助成事業の活用をセットとしたＰＲを継続して行うとともに、機会を捉えて関係団体等への周知を図っていく。	都市計画課
					実績	89								
	6	水道管路の更新延長（５年間の延長18,660m）	m	2,916	目標値	4,460	1,200	4,430	3,250	5,320	達成	145.7	水道管路の更新延長は、目標値 4,460mに対して実績 6,500mで目標を達成することができた。 要因は、平成32年度に計画していた小友簡易水道（桑畑工区）を漏水事故の多発のため、平成28年度に前倒しして実施したことや、現場精査により施工延長が延びたことがあげられる。	水道事務所
					実績	6,500								
	7	水洗化率	%	55.3	目標値	60.4	62.0	63.7	65.4	67.2	概ね達成	99.7	今年度は下水道排水設備申請が55件、浄化槽設置が59基と水洗化設備使用人口の増加があり、市の総人口 28,098人に対し、水洗化設備使用人口が16,913人となったことから、目標どおり概ね達成された。 今後も、浄化槽設置整備事業補助金制度の継続、未接続者に対しての利子補給補助金及び快適スマイル応援事業等の設置工事費負担軽減制度等の周知を図ることにより、水洗化率の向上を図る。	水道事務所
					実績	60.2								
	8	市道改良率	%	48.5	目標値	48.5	48.5	48.6	48.6	48.6	概ね達成	99.4	全延長1,299,966mのうち、改良延長627,179を整備した。 今後も、良好な維持管理に努め、市道改良工事を促進する。	建設課
					実績	48.2								

様式1

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	28年度 達成率	成果・評価	担当課
	9	市道舗装率	%	44.9	目標値	44.9	45.0	45.0	45.0	45.1	概ね達成	99.6	全延長1,299,966mのうち、舗装延長581,319を整備した。 今後も、良好な維持管理に努め、市道舗装工事を促進する。	建設課
					実績	44.7								
	10	自主防災組織活動支援数	団体	26	目標値	5	5	5	5	5	達成	220.0	90行政区中88行政区が結成済みである。未結成の2行政区については個別に結成を促している。 また、各町の自主防災組織に対する防災研修会を開催し、地域防災力の強化を図ったほか、避難所等に関する意見交換を行った。	消防総務課
					実績	11								
	11	救急救命士の数	人	16	目標値	16	16	16	16	16	達成	106.3	救急救命士養成所に１名派遣し、救急救命士の資格取得させるなど救命率の向上を図った。 また、気管挿管病院研修及び生涯研修としての病院実習を行い、救急救命士としての知識及び医療技術の向上を図った。	消防総務課
					実績	17								
	12	防災関係講習会等の参加者数	人	450	目標値	500	500	500	500	500	概ね達成	94.4	総合防災センター及び各自主防災組織等で開催したチャレンジ防災スクール、消防フェア及び防火防災講習会を通して、児童生徒及び自主防災組織等の自助・共助意識の高揚を図った。 今後、消防フェアは大人から子供まで来場しやすいよう事前広報（フェアの様子を写真、映像で紹介）し、内容をわかりやすく伝え参加者の増につなげる。防火防災講習会は、昨今の台風等による被害を踏まえ、大雨時の避難行動等に関し意識啓発し、組織役員や関係者他、地域住民の参加を呼び掛け参加者増につなげる。	消防総務課
					実績	472								
	13	消防水利の整備（累計）	箇所	消火栓 877	目標値	881	883	885	887	889			遠野市水利計画に基づき、消火栓２基、防火水槽（耐震性貯水槽）２基を新設して消防水利の充実を図った。 ・新設消火栓　　綾織町滝沢、土淵町野崎 ・新設防火水槽　上郷町暮坪、宮守町涌水 今後も、水利不便地域及び消防水利の充足率向上を図るため、自然水利や防火水槽及び消火栓設置状況を考慮し、計画的に整備を図る。	保安施設課
					実績	881								
				防火水槽 151	目標値	153	153	153	153	155				
					実績	153								
				計 1,028	目標値	1,034	1,036	1,038	1,040	1,044	達成	100.0		
					実績	1,034	0	0	0	0				
	14	消防ポンプの更新整備	台	消防団 3	目標値	1	―	3	1	3	達成	100.0	消防団消防ポンプ自動車１台を更新したことにより、地域の防災力の強化を図ることができた。 ・遠野市消防団第９分団第１部　宮守町糀町 今後も、経年及び老朽度合いをみながら、地域防災力の低下にならないよう未整備地域には早めの更新整備を進める。	保安施設課
					実績	1								
	15	小型ポンプ積載車の更新整備	台	消防団 4	目標値	―	―	3	―	3	達成	100.0	消防団車両整備計画を見直し、消防団小型動力ポンプ積載車１台、軽積載車１台更新、消防団車両の整備充実を図った。 ・団車両更新　綾織町山口、附馬牛町沢ノ口 今後も、小型ポンプ積載車の老朽化が進むため、地域防災力の低下にならないよう未整備地域には早めの更新整備を進める。	保安施設課
					実績	2								
	16	特殊車両の更新整備	台	消防本部 0	目標値	1	1	1	―	1	未達成	0.0	高規格救急車更新整備計画の見直しにより、29年度に向けて整備を進める。	保安施設課
					実績	0								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成果・評価	担当課
		指標名	単位	（26年度）	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
	17	コミュニティ消防センターの更新整備	箇所	消防屯所 0	目標値	―	1	―	1	―				保安施設課
					実　績	―								
	18	応急手当講習会参加者数	人	1, 862	目標値	1, 200	1, 200	1, 200	1, 200	1, 200	達成	172. 3	福祉及び保育施設職員の講習会に加え、平成28年度は全小学校のＰＴＡ及び職員（467名）による夏休みプール監視に伴う講習会、希望郷いわて国体に向けての講習会（134名）が開かれたことにより、救命率向上が図れた。 今後は、サービス業や建設業で働く方の講習率の向上に努める。	遠野消防署
					実　績	2, 067								
	19	応急手当普及員養成人数	人	37	目標値	40	40	40	40	40	達成	117. 5	応急手当普及員の資格者を40名体制として、これを維持していくため平成28年度は６名の受講者があり達成した。 また、述べ39名の応急手当普及員が救命講習の講師として普及活動にあたり、市民の救命率向上に貢献した。 今後も、応急手当普及員の要請を図り、救命率向上に努める。	遠野消防署
					実　績	47								
	20	消防団員数	人	928	目標値	935	935	935	935	935	概ね達成	96. 3	基本消防団員、機能別消防団員合わせて、入団者28人で退団者が43人であった。 今後とも、新入団員の募集活動に加えて現役消防団員の在籍継続の呼び掛けに努める。	遠野消防署
					実　績	900								
	21	市内における刑法犯罪発生件数	件	58	目標値	57	56	55	54	53	達成	121. 3	目標値は達成したものの、依然として高齢者を狙った振り込め詐欺や還付金詐欺等の特殊詐欺電話、重大事件に発展しかねない子どもへの声かけ事案等が発生していることから、今後も引き続き、各町（地区）防犯協会をはじめとした防犯団体や警察署等の関係機関と連携を図りながら、犯罪の未然防止と市民の安全意識高揚に努めていく。	市民協働課
					実　績	47								
	22	交通事故発生件数	件	42	目標値	40	39	38	37	36	概ね達成	95. 2	概ね目標を達成することができたが、ここ数年は交通死亡事故が増加傾向にあり、平成28年度も死亡事故が４件発生するなど、予断を許さない状況にある。 引き続き、警察署をはじめ交通安全対策協議会や交通安全協会等の関係団体と連携しながら、交通安全意識の啓蒙と交通事故防止活動の強化を図っていく。	市民協働課
					実　績	42								
	23	ケーブルテレビ加入率	%	84. 0	目標値	84. 2	84. 4	84. 6	84. 8	85. 0	達成	101. 0	加入金の減免制度を活用し、新規転入世帯及び引込線有加入者世帯（36件）、新築等に伴う一般加入（42件）があり、目標を上回る結果となった。 今後も引続き、加入金の減免制度を活用し、インターネット宅内配線工事費補助金制度及びインターネットサポートアドバイザーによるサポートを充実させ加入に努める。	ＩＣＴ推進担当
					実　績	85. 0								
2 健やかに人が輝くまちづくり （25指標）	24	１歳６ケ月児健康診査の受診率	%	99. 5	目標値	97. 0	97. 0	97. 0	97. 0	97. 0	達成	103. 1	未受診者に対し、早期に受診勧奨を実施し健診受診率100%を達成した。	保健医療課
					実　績	100. 0								
	25	３歳児のむし歯罹患率	%	34. 7	目標値	30. 0	30. 0	30. 0	30. 0	30. 0	達成	103. 8	生後６か月から３歳６か月までの半年毎に、むし歯予防事業を実施した結果、３歳児のむし歯罹患率は減少し、目標値を上回り改善傾向にある。 今後も、乳児期からのむし歯予防指導を継続し、さらにむし歯罹患率の減少を目指す。	保健医療課
					実　績	28. 9								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成果・評価	担当課
	26	麻しん風しん混合予防接種の接種率	%	95.3	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	達成	103.7	麻しん及び風しんは、幼児期に特に予防が必要な特定感染症であり、予防接種によって発病及びまん延を防止している。流行を抑制するため、国の指針において接種率目標は95%以上と定められており、接種期限内に接種できるよう周知・指導している。未接種者に対しては個別に接種勧奨を行い、目標値を上回る高い接種率を達成できた。	保健医療課
					実績	98.5								
	27	朝食をとる習慣のある子どもの割合	%	94.8	目標値	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	達成	101.9	講演会や調理実習を中心とした食育講座を、小中高生に延べ25回（953人）行い、料理ができる力、食べ物を選ぶ力を身につけ、小学生の「望ましい食習慣の定着」中・高校生の「自立に向けた食生活の基礎づくり」を支援した。 また、小中学生の「朝食をとる子どもの割合」は、目標95%に対し96.8%と目標値を上回った。 しかし、小学生から高校生までの割合を比較してみると、小学生98.5%、中学生92.1%、高校生88.5%と学年が上がるにつれて低い状況である。したがって、高校生へのアプローチ強化を図って行く。	総合食育推進課
					実績	96.8								
	28	特定健康診査受診率	%	50.2	目標値	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	未達成	82.3	40～74歳の全ての国保被保険者を対象としているため、自覚症状がなく多忙な就労世代や、定期的にかかりつけ医へ通院している者の受診率が低く目標に達しなかった。しかし、県内でも同様の状況にあり岩手県の平均値よりは上回っている（県内では11番目、14市中では２番目の受診率）。 受診者拡大に向け、これまでも法定の検査項目に加え、腎機能、貧血等の血液検査の追加、眼底・心電図検査の希望者への提供など検査内容の充実を図ってきたが、新たに「推定塩分摂取量検査」の項目を追加した。併せて、健診結果票をより見やすく、より分かりやすく一新し、受診者の満足度の向上や減塩の重要性に対する保健指導や啓発へつなげるよう努めた。 なお、受診機会の拡大については、土・日、夜間及び冬期の追加日程による特定健康診査の実施や人間ドックの受診に係る補助金交付における国保被保険者への助成額の上乗せなどを行い、受診しやすいよう環境の整備に努めている。 今後も、国保担当課と連携を強化し、被保険者に対し制度理解の推進と受診勧奨を行う。	保健医療課
					実績	49.4								
	29	特定保健指導実施率	%	30.3	目標値	50.0	60.0	60.0	60.0	60.0	未達成	51.6	特定保健指導の新規対象者及び新規利用者の増加もみられたが、多くの利用者は固定化され、多忙等の理由によって健診後の指導を断わられる場合が多い。また、生活習慣病は自覚症状がないままに重症化していくことから、生活改善の必要性を自覚しにくいことも、指導に結びつかない要因として考えられる。 健診会場や地域での健康教育を活用し、住民がより生活習慣改善の必要性を伝えるとともに、重症化予防の観点から、対象者への個別的なリスク項目（血圧、脂質、血糖）に合わせた情報提供、訪問等の個別指導を積極的に実施し、目標達成に努める。 なお、前年度比で3.6ポイント減であるが、県内では９番目、14市中では４番目の実施率であった。	保健医療課
					実績	25.8								
	30	特定保健指導改善率	%	21.0	目標値	25.0	30.0	30.0	30.0	30.0	達成	112.0	前年度の特定保健指導による翌年度の特定保健指導対象者の減少割合をみたものであり、前年度実績である26.1ポイントと比較して、1.9ポイント増加し、目標を達成した。対象者の生活に即した個別指導と、食事と運動について集団で学ぶ教室を組み合わせることが、生活習慣の見直しへの意識付けにつながったと考える。 今後も、第３次遠野市健康増進計画の推進と併せて、本市の健康課題を踏まえた取組を継続する。	保健医療課
					実績	28.0								
	31	がん検診受診率	%	33.5	目標値	35.0	38.0	40.0	45.0	50.0	概ね達成	98.6	保健推進委員等による個別通知や地域での受診勧奨、遠野すずらん振興協同組合と提携した検診等受診ポイント事業の継続、休日・夜間、冬期間の追加日程等による受診機会の拡大、各地区単位での検診案内のポスター掲示、ケーブル告知放送を利用した検診の周知、乳・子宮頸がん検診未受診者に対するはがきによる受診勧奨等の取組により、全体の受診率は昨年より増加した。大腸がん検診は、国の無料クーポン事業の終了により受診率は減少した。 平成29年度は、さらに受診率の増加を目指し、胃・肺・大腸がん検診未受診者における受診勧奨対象年齢に対し、追加日程時に個別通知での受診勧奨を実施する。	保健医療課
					実績	34.5								
	32	がん検診精密検査受診率	%	87.9	目標値	90.0	93.0	95.0	98.0	100.0	概ね達成	98.8	各がん検診の精密検査の未受診者全員に対し、電話や訪問等により受診状況の把握並びに早期受診の勧奨を実施した。未受診者への受診勧奨を機に精密検査の受診につながる場合も多く、今後も、未受診者への早期受診の勧奨の強化及び精密検査の受診状況の全把握を行っていくとともに、検診受診時に、精密検査の重要性を説明し、理解を求めていく。	保健医療課
					実績	88.9								

様式1

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成果・評価	担当課
	33	健康スポーツプログラム参加者数	人	1,938	目標値	2,000	2,100	2,100	2,100	2,100	達成	153.3	遠野市健康づくり総合大学「とすぽ」として、本校（市民センター）教室とサテライト（全地区センター）教室を開催し、定期的に運動する機会を提供して健康増進の意識付けを図った。 本校では、１年を通して「わくわくフィットネス」、「エンジョイ水中ウォーキング」、「パワフルエクササイズ」の３つの教室を開催し、サテライト校では、スラックライン等地域のニーズに合わせた教室を開催した。 とすぽ大学祭では、元プロ野球選手による「ベースボールクリニック」、高齢者対象の「健康体操講習会」、児童対象の「スイミング教室」を開催した。 参加者は、平成26年度から増加傾向にある。	生涯学習スポーツ課
					実績	3,066								
	34	スポーツ施設利用者数	人	204,435	目標値	205,000	205,200	205,400	205,600	205,800	達成	109.8	希望郷いわて国体開催に向けて天然芝を養生するため、国体が終了するまで遠野運動公園の陸上競技場と多目的運動広場の利用を制限した。 市民サッカー場は、人工芝に張り替えてから年間４万人を超える利用者数となり、張り替え前の約２倍の利用者数となっている。 市民体育館は、改修してから年間７万人近い利用者数となり、改修前の利用者数に戻りつつある。	生涯学習スポーツ課
					実績	225,056								
	35	老人クラブ加入者数（累計）	人	2,753	目標値	2,570	2,570	2,570	2,570	2,570	概ね達成	99.8	全老連、県老連が推進する会員増強運動と連動し、遠野市老人クラブ連合会においても会員拡大に取り組んだことにより、目標を概ね達成することができた。 平成28年度においては、休会していた単位クラブ（１クラブ）が活動を再開するなど、市老人クラブ連合会を中心とした積極的な取組が功を奏したことから、引き続き、魅力的で生きがいある老人クラブ活動の支援に努める。	生涯学習スポーツ課
					実績	2,564								
	36	シルバー人材センター就業延人員	人日	15,045	目標値	17,000	17,500	18,000	18,000	18,000	未達成	85.5	平成28年度は、新入会員は前年度に比べ13人多い37人の入会となったが、加齢による体力低下等のため退会者が43人あり、６人減少の223人となった。そのため、就業延人員でも目標値には達しなかったが、地域に密着した就業機会の提供や就業上必要な技能、知識を付与することにより、多様な就業に結びつき、前年度に比べ619人日増となった。 高齢者の知恵と技能は貴重な社会資源であるため、12月に開所した駅前さろん銀を活用し、今後も会員数はもとより、新規受託事業の拡大に向け情報提供を行っていく。	長寿課
					実績	14,540								
	37	一人暮らし老人世帯等の見守り回数	回（見回対象世帯数）	5,896	目標値	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	未達成	84.8	平成28年度は、市老人クラブ連合会に委託している「一人暮らし高齢者見守り支援事業」により１世帯に47回の見守り安否確認を実施した他、配食サービス利用者に対する配達時の見守りや声がけを5,108回実施した。 定期的な訪問を行うことで、高齢者世帯が住み慣れた地域で安心して生活を送れる環境を整えることにつながった。 今後も、民生児童委員や在宅介護支援センターと連携し、見守りが必要な世帯の把握に努め、引き続き活動を行っていく。	長寿課
					実績	5,155								
	38	高齢者体力アップ利用者数	人	1,349	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	達成	105.4	二次予防事業対象者（要支援や要介護の状態になる可能性の高い高齢者）を対象に、介護予防のための効果的な筋力トレーニング及びバランス訓練を行う教室を開催した。継続参加者も増えている。 参加者からは、教室参加の効果を実感している声が多数聞かれた。また、仲間づくりが図られ、参加者は楽しく参加している。 今後は、高齢者が住民主体で行う体操等の支援と併せて、気軽に筋力トレーニングを行える場を提供し、介護予防につなげていく。	長寿課
					実績	1,265								
	39	生きがい活動支援通所事業利用回数	回	6,368	目標値	6,300	6,400	6,400	6,400	6,400	達成	102.6	平成28年度は、新規利用者が78人あったが、体調不良や要支援・要介護の認定を受ける等利用廃止となる者が75人あった。新規利用者の約半数が80歳以上であり、加齢により外出機会や交流機会が少なくなった高齢者にとって、貴重な活動や交流の場となっている。 今後も、多くの高齢者が参加できるよう、各地区の在宅介護支援センター等を通じて、対象者の把握に努め参加を呼び掛けていく。 H23実績5,830人　H24実績6,053人　H25実績6,181人 H26実績6,368人　H27実績6,418人	長寿課
					実績	6,465								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 (26年度)	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成　果　・　評　価	担当課
	40	認知症サポーター数	人	324	目 標 値	200	200	200	200	200	達成	188.0	平成28年度は、地域住民や施設職員、児童、生徒等を対象に養成講座を開催し、認知症についての正しい理解と「認知症の方を地域で支えていく」という意識の高揚が図られた。 年々、認知症への関心が高まっており、認知症サポーター養成講座には、小学生から高齢の方まで幅広い年齢層の方が受講し、認知症を正しく理解することで、認知症の方やその家族への支援につながった。 今後も、各種団体や学校等に対して継続した働き掛けをしサポーターの養成につなげていく。	長寿課
					実　　績	376								
	41	家族介護教室参加者数	人	353	目 標 値	260	270	270	270	270	達成	131.5	平成28年度は、遠野市社会福祉協議会に事業を委託し、高齢者を介護している家族や近隣の援助者を対象とした教室を24回開催した。 介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等についての知識、技術の習得、情報交換の場として活用され家族介護力の向上につながった。 今後も、多くの介護者が参加できるよう、周知方法や開催曜日、開催方法を調整・検討し、民生委員、介護支援専門員及び在宅介護支援センター等から協力を得ながら家族介護者に参加を呼び掛けていく。	長寿課
					実　　績	342								
	42	家族介護者交流事業参加者数	人	96	目 標 値	100	100	100	100	100	未達成	77.0	平成28年度は、遠野市社会福祉協議会に事業を委託し、高齢者を介護している家族を対象とした交流会を宿泊型１回、日帰り型２回、延べ77人が参加した。 介護者を一時的に介護から解放することにより、心身のリフレッシュが図られたほか、介護者間の情報交換や介護者相互の支援機会の確保につながった。 今後も、多くの介護者が参加できるよう、周知方法や開催曜日、開催方法を調整・検討し、民生委員、在宅介護支援センター及び介護支援専門員等から協力を得ながら家族介護者に参加を呼び掛けていく。	長寿課
					実　　績	77								
	43	福祉施設から地域生活への移行者数	人	2	目 標 値	2	2	2	2	2	達成	100.0	平成28年度については、２人の方について施設及び病院からグループホーム等の地域生活へ移行することができた。 今後も、障がいのある人がそれぞれの能力や適正に合わせて、地域で自立した生活が営むことができるよう、関係団体等との連携を密にするとともに、利用者意向を確認しながら地域移行に向けた体制の整備を図る。具体的には、生活や日中活動の場の確保や地域住民の障がいや障がいのある人に対する理解に向けた取組、地域定着のための相談支援体制の充実を図る。	福祉課
					実　　績	2								
	44	福祉施設から一般就労への移行者数	人	2	目 標 値	2	2	2	2	2	達成	300.0	遠野市地域自立支援協議会就労支援部会内で対象者を把握し、ハローワーク、岩手中部障がい者就業・生活支援センター及び支援学校等構成員の情報共有と個々への支援を行い、新たに６人の方について一般就労につなげることができた。 今後も、就労者への職場定着支援を含め、新たな就労につなげられるよう障がい者雇用制度の周知や就労支援を行う。	福祉課
					実　　績	6								
	45	合計特殊出生率	―	1.90 (H25実績)	目 標 値	1.90	1.92	1.92	1.94	1.94	未達成	86.3	わらすっこプランによる事業の推進を図り、特に平成28年度については、子ども・子育て支援新制度の開始に伴い、保育料の利用者負担額を国の基準額の半額程度に設定するなど、子育てにやさしい環境づくりを更に進めた。 また、「子育て応援宣言のまち推進事業」として、わらすっこファミリー・サポート・センターを開設し、子育てをする者が安心して働くことのできる環境を整備した。 更に、平成28年４月１日から公立保育所３園を遠野市保育協会に移管したことにより、市内の保育所運営体制の一元化が図られ、新たな保育基盤のもとに順調に運営されていると認識している。 指標である合計特殊出生率については、目標数値と比較して0.26下回っており、原因については晩婚化の現象とともに、25才～29才代の女性が出産する率が前年と比較して45%減少していることが大きな要因と考えられる。 今後は、「子育てするなら遠野」の第２ステージとして、地域や事業所を巻き込みながら、市民協働による子育てを応援するまちづくりを図るとともに、少子化対策の一環として「とおのスタイル結婚応援事業」を展開し、男女の出会いから結婚、妊娠、出産、子育てと切れ目のない支援をさらに発展させ、1.94を目指して施策を展開していく。	子育て総合支援課
					実　　績	1.64								
	46	妊娠・出産について満足している者の割合	%	87.2	目 標 値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	達成	110.5	不安が高まりやすい妊娠・産後１か月程度の期間において、「助産師や保健師から十分なケアを受けることができたか。」についてアンケート調査を行った結果、「適切な支援を受けることができ満足している。」という者の割合は、国が示す目標値85%を上回る高率であった。 今後も、対象者のニーズに合わせた支援を実施していく。	保健医療課 子育て総合支援課
					実　　績	93.9								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成　果　・　評　価	担当課
		指標名	単位	(26年度)	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
	47	わらすっこ割合	%	14.02	目標値	14.02	14.02	14.02	14.02	14.02	概ね達成	97.8	わらすっこプランによる事業の推進を図り、特に平成28年度については、子ども・子育て支援新制度の開始に伴い、保育料の利用者負担額を国の基準額の半額程度に設定するなど、子育てにやさしい環境づくりを更に進めた。 　また、「子育て応援宣言のまち推進事業」として、わらすっこファミリー・サポート・センターを開設し、子育てをする者が安心して働くことのできる環境を整備した。 　更に、平成28年４月１日から公立保育所３園を遠野市保育協会に移管したことにより、市内の保育所運営体制の一元化が図られ、新たな保育基盤のもとに順調に運営されていると認識している。 　指標であるわらすっこ割合（年度末における、18歳以下の人口の割合）については、目標数値と比較して0.31%下回った。原因については晩婚化の現象とともに、25才～29才代の女性が出産する率が前年と比較して45%減少していることが大きな要因と考えられる。 　今後は、「子育てするなら遠野」の第２ステージとして、地域や事業所を巻き込みながら、市民協働による子育てを応援するまちづくりを図り、わらすっこ関連事業をさらに発展させ、14.02を目指して施策を展開していく。	子育て総合支援課
					実績	13.71								
	48	児童館・児童クラブ年間利用延べ人数	人	136,814	目標値	137,900	138,400	138,950	139,450	140,000	概ね達成	98.1	平成28年度の延べ利用者数は、目標数値に対して2,595人下回る結果であった。 　児童館及び児童クラブが地域交流事業など、特色ある活動に取り組んでいる一方、利用数が減少したことは児童数の減少が影響していることも原因のひとつである。 　今後も、児童の健全育成の場、子どもの居場所として、活動内容の充実や児童館施設の計画的な整備を図り、利用者のニーズに沿った管理運営に努める。	子育て総合支援課
					実績	135,305								
3 **活力を創意で築くまちづくり** **（47指標）**	49	水田の作付割合	%	89.7	目標値	89.8	89.9	90.0	90.0	90.0	概ね達成	97.2	水田は水田として活用することを基本に、国の経営所得安定制度を有効活用しながら地域に適した主食用米の作付推進のほか、飼料用米やＷＣＳをはじめとする需要が高まる転作作物の作付誘導を図った。 　しかし、農業従事者の高齢化及び後継者不足などにより、28年度において不作付地が26ha増加したことにより目標達成に至らなかった。 　今後は、農業委員会や関係機関との連携を密にし、農地中間管理事業などを活用した不作付地の解消に引き続き取り組む。	農業振興課
					実績	87.3								
	50	担い手への水田の集積率	%	49	目標値	52	55	58	60	65	概ね達成	92.3	認定農業者数は、農業従事者の高齢化及び後継者不足と比例する形で減少傾向にあり、28年度において9人の減となったことや、集落営農組織への集積が進まず目標達成に至らなかった。 　今後は、新規就農者や若手農業者を中心に認定農業者の確保・育成を進めるとともに、集落営農組織の経営強化に向けた支援を継続しながら、農地中間管理事業などの各種制度を活用して水田の集積に努める。	農業振興課
					実績	48								
	51	集落営農数	組織	20	目標値	21	22	22	23	24	概ね達成	95.2	集落営農アドバイザーの配置により、各集落営農組織の巡回指導、組織化に向けた支援活動を実施した。 　今後も、集落営農組織の経営の体質強化、法人化への誘導支援、新たな集落営農組織の設立に向けた支援を継続していく。	農業振興課
					実績	20								
	52	認定農業者数	経営体	363	目標値	350	345	340	335	330	概ね達成	98.6	担い手支援アドバイザーを配置し巡回相談を行ってきたが、目標達成に至らなかった。 　今後も、認定農業者制度の周知、各種研修会を実施し認定農業者の確保、育成に努める。	農家支援室
					実績	345								
	53	青年就農給付金支給者数	経営体	14	目標値	14	14	14	14	14	達成	107.1	若い新規就農者を増加させるための国の制度であり、給付を受けるために関係機関が協力し、支援体制を整え、計画策定時からきめ細かな支援を行った。支援は経営が軌道に乗るまで継続して行い、今後の地域農業の担い手として期待をする。	農家支援室
					実績	15								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成　果　・　評　価	担当課
		指標名	単位	(26年度)	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
	54	家族経営協定数（累計）	組	238	目 標 値	241	244	247	250	253	達成	105.8	「月給制・休日制の導入」、「女性・若者の農業経営への主体的参加」、「円滑な経営の継承」、「生活面のルール化」等を定めることにより、経営管理の充実と就業条件改善が期待される家族経営協定は「家族経営協定推進アドバイザー」11名を中心に農業委員会全体で推進し、家族経営協定締結に結び付け、担い手の経営支援を図った。 しかし、平成28年度新規締結件数は11世帯で、目標とした「農業委員１人１協定」は達成できなかった。	農業委員会
					実　　績	255								
	55	野生鳥獣による農作物被害額	億円	1.35	目 標 値	1.15	1.05	0.95	0.90	0.85	達成	118.6	電気牧柵を中心として防除体制及び鳥獣被害対策実施隊による捕獲体制の強化によって、被害額は平成25年度をピークに年々減少傾向となっている。 今後も、駆除、防除、人材育成対策を継続して、効果的な対策を実施する。	農業振興課
					実　　績	0.97								
	56	多面的機能支払事業取組農地の割合	%	46.9	目 標 値	58.4	59.2	60.1	61.0	61.9	達成	105.1	多面的機能支払い制度を積極的に周知し、地域住民が一体となっての環境整備や農道・水路の維持補修など地域活動に対し支援してきた。 今後も、農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮を図るため制度の周知、研修会を実施しながら、多面的機能支払い事業取り組み農地の拡大を図る。	農業振興課
					実　　績	61.4								
	57	中山間地域等直接支払事業取組農地の割合	%	21.1	目 標 値	22.9	22.9	22.9	22.9	23.4	概ね達成	93.4	中山間地域等直接支払い制度を積極的に周知し、取り組み地域を組織化してきた。 今後も、中山間地域等農業生産条件が不利な地域の生産活動を継続するための支援を行い、耕作放棄地の発生防止や多面的機能の確保を図るため、取り組み農地の面積を維持する。	農業振興課
					実　　績	21.4								
	58	農業所得500万円以上の農家数	経営体	13	目 標 値	14	15	16	17	18	概ね達成	92.9	重点品目を中心とした支援、関係機関団体と連携した技術指導会や研修会を開催するとともに、省力化・低コスト化を図るための農業機械導入支援を実施してきた。 今後も、流通販売や生産技術指導体制の充実を図り、重点的な支援策を実施し、高収益農家の拡大を推進する。	農業振興課
					実　　績	13								
	59	繁殖素牛頭数	頭	2,517	目 標 値	2,550	2,640	2,730	2,810	2,900	達成	117.0	畜産農家戸数は減ってはいるものの、大規模繁殖農家の増頭や新規就農者の確保、肥育農家の繁殖牛導入により増頭が図られた。 今後も、肉用牛増産対策として黒毛和種優良素牛導入支援事業費補助金を継続し、増頭を支援していく。 ただし、増頭による堆肥処理の課題について、検討していく必要がある。	畜産振興課
					実　　績	2,984								
	60	和牛子牛市場出荷頭数	頭	1,735	目 標 値	1,760	1,820	1,880	1,940	2,000	概ね達成	97.4	概ね達成されたものの、依然として市場での取引が高値で推移しているため、繁殖雌牛の市場導入を控え自家保留し、市場への出荷が伸びないと考えられる。 今後の市場価格の動向を注視しながら、市場出荷頭数を増やす取組を進める。	畜産振興課
					実　　績	1,714								
	61	いわて遠野牛出荷頭数	頭	1,247	目 標 値	1,200	1,300	1,400	1,500	2,500	未達成	89.5	平成26年頃から、和牛子牛市場で取引価格が上がりはじめ、肥育素牛の導入を控えたため、出荷頭数が伸びなかったと考えられる。 現在は、肥育農家でも繁殖牛を導入し、肥育素牛を確保しているため、出荷頭数は増えるものと期待される。 また、肥育素牛導入支援対策事業を継続し、遠野産肥育素牛の市外への流出を抑え「いわて遠野牛」の出荷頭数増を支援していく。 これについても、繁殖素牛同様に、増頭による堆肥処理の課題を検討していく必要がある。	畜産振興課
					実　　績	1,074								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	28年度 達成率	成果・評価	担当課
	62	馬生産頭数	頭	39	目標値	30	30	30	30	30	達成	110.0	乗用馬生産者に対し、遠野馬の里の越冬放牧施設の利用を促進し、飼養管理費の低コスト化を図った。 また、農用馬生産者の意欲喚起のため、種付け料の助成や子馬生産奨励金制度の活用を促進し、一定の成果につながった。引き続き、助成支援を継続し生産頭数の安定を図る。	馬事振興課
					実績	33								
	63	乗用馬市場取引金額	万円	2,152	目標値	2,350	2,350	2,350	2,350	2,350	未達成	84.9	第43回遠野市乗用馬市場の売上げ総額は、1,994万円と目標値を下回った。１歳馬の売却率が52.6％と伸び悩んだことが要因で、購買者側のニーズは、未調教１歳馬から既調教２歳以上馬に変化している。 今回、そのニーズに対応するため既調教２歳以上馬の上場馬数を確保し充実を図った結果、２歳以上馬の売却率は好調となり、昨年度の売上げ総額より106万円上回ることができた。 購買者への宣伝強化、２歳以上馬の上場頭数の確保を図り指標達成に努める。	馬事振興課
					実績	1,994								
	64	農業生産額（耕種）	千万円	277	目標値	276	278	279	280	282	概ね達成	96.4	平成28年に第２次遠野市農林水産振興ビジョン（タフ・ビジョンⅡ）を策定し農業振興を図ってきた。今後の関係機関・団体と連携し、タフ・ビジョンⅡに基づき農業振興を図る。	農業振興課
					実績	266								
	65	農業生産額（畜産）	千万円	374	目標値	356	355	361	367	429	達成	130.3	畜産における生産額の増は、和牛子牛市場の取引価格及び肥育牛の販売価格の高値が大きな要因と考えられる。 いつまで高値が続くのか市場の状況を見極めるとともに、仮に市場価格が下がっても出荷頭数を増やすことにより、生産額を確保するように努めたい。	畜産振興課
					実績	464								
	66	農業生産額（特用林産）	千万円	27	目標値	28	29	29	29	30	達成	117.9	菌床しいたけにおいては、事業導入により周年出荷体制が確立してきており、安定的なしいたけの販売が確立されてきている。また、原木しいたけにおいては、東日本大震災の影響により平成24年５月から流通が規制されており、しいたけが発生する都度検査を実施する厳しい運用が求められている。現在は22名の集荷制限一部解除に留まっている。 今後も事業を活用し、原木導入経費、種菌購入費等の支援を継続するとともに、栽培管理の徹底を促し、一日も早い、全生産者の出荷制限解除を目指す。わさび、山菜類においても、関係機関と協力し、生産量の維持確保に努める。	林業振興課
					実績	33								
	67	農産物直売所売上高	千万円	55	目標値	56	57	58	59	60	達成	108.9	各直売所が趣向を凝らし、消費者ニーズに合ったものを提供することにより、販売額を維持することができた。 今後も、旬なものを提供できるように情報共有・発信を図っていく。	農家支援室
					実績	61								
	68	６次産業化関連効果額	億円	16.5	目標値	17.0	17.2	17.3	17.4	17.6	達成	100.6	商品開発コーディネーターを配置し、新商品開発や商品改良の相談に対応したほか、遠野ふるさと公社等市内事業者の商談会、物産展への出展など、国内の販路拡大に努めた。 一方、海外への販路開拓においては、地方創生推進交付金実施計画（とおののもの・こころ海外経済交流プロジェクト）として、台湾の裕毛屋企業股份有限公司と地方創生連携協定を締結し、遠野との縁がある台湾での遠野市物産展開催に取り組んだ。以上の取組などにより、六次産業関連効果額が増加した。 [六次産業関連効果額] ・製造品出荷額（食料品）3.0億円（ただし、公表前のため推計値） ・加工品出荷額 0.6億円 ・特産品販売額 6.8億円 ・農産物直売所売上額 6.1億円 （合計） 17.1億円（ただし、一部公表前の数値を含むため推計値	商工観光課 農家支援室
					実績	17.1								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 (26年度)	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成果・評価	担当課
	69	森林整備面積(年間整備面積)	ha	494	目標値	490	509	547	585	585	未達成	83.3	国の森林整備事業を活用し森林整備を推進したが、平成28年８月に発生した台風10号被害により林道が寸断され、市有林、私有林共に事業の中断を余儀なくされ、目標値を達成することはできなかった。 森林整備事業実施面積 407.88ha【市有林　16.70ha（植栽、下刈、忌避剤、間伐）＋県有林　45.86ha（間伐）＋私有林　317.15ha（植栽、下刈、除伐、間伐、忌避剤）＋森林環境税　28.17ha（間伐）】 私有林については、市独自事業として①市の嵩上げによる90%補助、②山林からの木材運搬に対する補助を行っており、森林整備をより推進していく。	林業振興課
					実績	408								
	70	民有林再造林面積	ha	42.7	目標値	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	達成	165.7	市単独の嵩上げ支援制度などを制定し、再造林を促してきたことにより、目標を達成することができた。 伐採後の再造林を推進するため、植栽に係る経費の約90%の補助を受けられることを遠野地方森林組合と連携し、森林所有者にＰＲしてきた。遠野地方森林組合と共に事業周知を行い、さらなる再造林面積の増加を図る。	林業振興課
					実績	69.6								
	71	木工団地事業体の売上高	億円	17	目標値	17	17	18	18	18	達成	111.8	一般住宅の東日本大震災からの復興に向けた動きが本格化するなど需要が増大しており、木工団地全体の売上高は前年度比約9,000万円の増額となった。 今後、数年は復興需要が見込まれるが、その後の新たな事業展開の開拓が必要であり、今後も各事業体の情報を集約し、安定供給に向けた取組を進める。	林業振興課
					実績	19								
	72	松くい虫被害木駆除材積量	m3	600	目標値	600	600	600	600	600	達成	102.0	被害地域が西側から拡大してきている中、本市は被害の先端地域に位置することから、被害木については、東側を優先して徹底防除に努めている。 県森林病害虫防除員、遠野地方森林組合及び市内林業事業体との連携により防除体制を強化し、市内全域での被害の早期発見・早期駆除の徹底を図っており、この取組が功を奏し、被害を遠野市内で抑え込んでいる状況である。 引き続き、被害拡大を抑制するため関係機関と連携した取組を行う。	林業振興課
					実績	612								
	73	特用林産物生産量（原木しいたけ）	t	0.0	目標値	1.8	2.3	3.5	4.6	4.6	未達成	88.9	遠野産の原木しいたけは、東日本大震災の影響により平成24年５月から流通が規制されている。 国や県が示すガイドラインに沿った栽判管理の徹底により、ほだ木の調達時や、きのこ収穫時に、その都度検査を受けるなど、生産者にとっては厳しい取組が求められる中、現在は22名が集荷制限一部解除となっている。 「原木しいたけ生産継続対策事業費補助金」による原木導入経費、種菌購入費等の支援を継続するとともに、栽培管理の徹底を促し、一日も早い全生産者の出荷制限解除を目指していく。	林業振興課
					実績	1.6								
	74	市内従業者数	人	10,775	目標値	―	10,780	―	―	10,785			（平成28年度の市内従業者数は、平成29年12月の経済センサス活動調査の公表をもって、実績値を把握する）	商工観光課
					実績	―								
	75	就職希望の高校生の就職率	%	100	目標値	100	100	100	100	100	達成	100.0	高等学校、職業安定所、県、市が連携した取組を行うことで、就職希望者の就職率100%を達成することができた。 【取組内容：高校生就職支援関係機関情報交換会、とおの就職ガイダンス、企業見学会、インターンシップ、新規高等学校卒業者職業紹介連絡会議】 今後も、就職希望者や事業所のニーズにそった支援ができるように取組内容を精査しながら、関係機関と連携した取組を継続する。	商工観光課
					実績	100								
	76	市内法人数	社	634	目標値	637	640	643	646	649	達成	100.6	緩やかな回復基調が続く国内経済動向を背景に、遠野市内への法人進出・法人設置の動きが促進され、目標値を上回る法人数となった。	商工観光課 税務課
					実績	641								

様式1

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状（26年度）	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成果・評価	担当課
	77	製造品出荷額	億円	403	目標値	404	405	406	407	408			（平成28年度の製造品出荷額は、平成29年12月の経済センサス活動調査の公表をもって、実績値を把握する。緩やかな回復基調が続く国内経済動向を背景に、市内企業等の聴き取り調査などからも、目標値の404億円を超えると推測される。）	商工観光課
					実績	―								
	78	年間商品販売額	億円	317	目標値	―	320	―	―	325			（平成28年度の年間商品販売額は、平成29年12月の経済センサス活動調査の公表をもって、実績値を把握する。）	商工観光課
					実績	―								
	79	法人資産総額	億円	350	目標値	358	361	364	367	370	達成	112.8	市内企業や小規模事業者等の事業拡張、生産力の拡大により、設備投資が進み法人資産総額が増加した。	商工観光課
					実績	404								
	80	大学等研究機関との共同研究	件	1	目標値	1	1	1	1	1	達成	200.0	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）の一環として、岩手大学と遠野市六次産業推進本部、遠野ふるさと公社が共同して、デジタルコンテンツを活用した観光情報拡散の研究を行った。研究成果は、道の駅遠野風の丘等で展示発表されたほか、岩手大学産学官連携研究センターで発表された。 このほか、岩手大学と遠野地区センター、地元自治会の共同により、少子高齢社会を迎えた地域社会における自治会活動の活性化に関する調査を行った。研究成果は、遠野町地域づくり推進大会で発表されたほか、岩手大学産学官連携研究センターで発表された。	商工観光課
					実績	2								
	81	商店街街路灯ＬＥＤ化促進事業（累計）	団体	2	目標値	2	4	6	8	10	未達成	0.0	平成28年度については、商店街が管理する街路灯の状況の把握と商店街との意見交換を行った。整備費用に活用できる国・県等の補助事業の動向を確認、財源確保を検討しながら、整備に向けた取り組みを検討する。	商工観光課
					実績	0								
	82	中心市街地の観光施設入込数	人	64,726	目標値	80,000	90,000	100,000	100,000	100,000	未達成	61.8	中心市街地の観光施設入込数について、東日本大震災以降、市内全体として観光客減少が続いていた。徐々に回復が見られてきているものの、入込数の目標達成には至らなかった。 今後は、目標達成に向け対象となっている博物館、とおの物語の館、城下町資料館に訪れていただくよう企画展、イベントの事業に取り組んでいく。	商工観光課 まちづくり 再生担当
					実績	49,430								
	83	中心市街地通行車両・歩行者数	人	3,610	目標値	3,716	3,822	3,928	4,034	4,141	未達成	88.0	中心市街地の通行量については、中心市街地５箇所を毎年９月に調査している。概ね当日の気象条件により左右される傾向にあるが、概ね例年並みに推移している。 平成29年９月に、市役所本庁舎が中心市街地で供用開始されることから、通行の流れを今後も調査していきながら指標の達成度合いを確認していく。	商工観光課 まちづくり 再生担当
					実績	3,271								
	84	空き店舗利用件数	件	2	目標値	2	2	2	2	2	達成	300.0	中心市街地の空き店舗利用件数は、目標を達成することができた。創業支援計画に基づき、引き続き行政、商工会、金融機関が連携して創業支援塾を開催し、新規出店者の掘り起しや支援を行い商店街の活性化を図っていく。 また、新規出店に伴う家賃や改修費用の一部を助成する制度も活用実績があることから、制度を継続して支援していく。	商工観光課
					実績	6								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 (26年度)	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成　果　・　評　価	担当課
	85	道の駅みやもり入込数	人	321, 440	目 標 値	327, 910	331, 180	334, 500	337, 840	341, 220	概ね達成	90. 4	道の駅みやもり入込数は、東北横断自動車道宮守インターチェンジ開通後、国道283号線の通行量が減少したことにより入込数も減少傾向であった。 しかし、ＳＬ銀河運行によりめがね橋への誘客が図られたことや、隣接する商業施設に新たにホームセンターが出店したことにより、目標値を概ね達成することができた。 魅力ある施設として、今後も活性化に向け取り組んでいく。	商工観光課 まちづくり再生担当
					実　　績	296, 350								
	86	観光客入込数（道の駅を含まない）	万人	52	目 標 値	54	55	56	57	58	未達成	83. 3	東日本大震災以降６年が経過し、徐々に観光客が戻りつつあるが、イベントのマンネリ化、施設誘客力の低下、観光関係機関・団体が個々で動いているなど改善点が多い。 観光関係機関・団体の活動が点の活動となっており、面の活動となっていない傾向にあり、新たな観光推進体制の整備が必要であり、新たな観光推進体制の検討を具体的に進めるため「遠野市観光推進協議会設立準備委員会」を設立し取組を加速化させる。	商工観光課
					実　　績	45								
	87	道の駅利用者を含む観光客入込数	万人	184	目 標 値	185	186	187	188	189	未達成	88. 1	東日本大震災以降６年が経過し、徐々に観光客が戻りつつあるが、イベントのマンネリ化、施設誘客力の低下、観光関係機関・団体が個々で動いているなど改善点が多い。 観光関係機関・団体の活動が点の活動となっており、面の活動となっていない傾向にあり、新たな観光推進体制の整備が必要であり、新たな観光推進体制の検討を具体的に進めるため「遠野市観光推進協議会設立準備委員会」を設立し取組を加速化させる。	商工観光課
					実　　績	163								
	88	日帰り旅行者数	万人	175. 4	目 標 値	177. 2	178. 0	178. 8	179. 6	180. 4	未達成	87. 7	東日本大震災以降６年が経過し、徐々に観光客が戻りつつあるが、イベントのマンネリ化、施設誘客力の低下、観光関係機関・団体が個々で動いているなど改善点が多い。 観光関係機関・団体の活動が点の活動となっており、面の活動となっていない傾向にあり、新たな観光推進体制の整備が必要であり、新たな観光推進体制の検討を具体的に進めるため「遠野市観光推進協議会設立準備委員会」を設立し取組を加速化させる。	商工観光課
					実　　績	155. 4								
	89	宿泊客数	千人	86	目 標 値	78	80	82	84	86	概ね達成	98. 7	東日本大震災以降６年が経過し、徐々に観光客が戻りつつあるが、イベントのマンネリ化、施設誘客力の低下、観光関係機関・団体が個々で動いているなど改善点が多い。 観光関係機関・団体の活動が点の活動となっており、面の活動となっていない傾向にあり、新たな観光推進体制の整備が必要であり、新たな観光推進体制の検討を具体的に進めるため「遠野市観光推進協議会設立準備委員会」を設立し取組を加速化させる。	商工観光課
					実　　績	77								
	90	外国人観光客入込数	人	1, 208	目 標 値	1, 800	2, 100	2, 400	3, 000	3, 500	達成	129. 7	本市を世界に発信し、海外との交流促進を通じて交流人口拡大する目的で「遠野のもの・こころ海外交流推進委員会」を発足させ、岩手県台湾訪問ミッションへの参加や、市長を団長とした台湾公式訪問等に取り組み、伊能嘉矩生誕150年となる本年への準備を進めた。 また、本市単独での誘客にも限界があるため、花巻市・平泉町と国の交付金事業等を活用し、広域連携による回遊体制の構築に着手している。 本市を訪れる外国人は欧米の方々も訪れているため、アジア圏以外のインバウンド対応を検討していく。	商工観光課
					実　　績	2, 334								
	91	農家民泊戸数（累計）	軒	141	目 標 値	150	155	160	165	170	概ね達成	93. 3	教育旅行の受入校数が、震災直後に比べ倍増し、平成28年度は11校を受入した。一方、高齢等の理由により登録を辞退する農家が増えたことにより、農家民泊戸数が減少した。 今後も、受入れ農家を支援しながら、交流による産業振興と地域の活性化に努めていく。	連携交流課
					実　　績	140								
	92	定住者世帯数（累計）	軒	61	目 標 値	85	100	120	140	160	概ね達成	97. 6	平成28年度の移住・定住に向けた相談件数は延べ61件（38人）で、うち９世帯18人が移住・定住した。 依然、移住・定住希望者が希望する空き家の確保が課題である。 今後も、リフォーム事業助成金の利用促進、市内の不動産業者との連携、区長会などの協力を得ながら物件確保の上、更なる定住促進を図っていく。	連携交流課
					実　　績	83								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成　果　・　評　価	担当課
		指標名	単位	(26年度)	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
	93	で・くらす遠野市民人口	人	300	目 標 値	300	300	300	300	300	未達成	82.7	平成28年度は、友好都市・愛知県大府市を中心とした支援の継続や遠野郷人会の協力をいただきながらも、新規会員の加入が伸びず目標値を上回ることができなかった。延べ2,600人を超え、特に、中京地区本部においては延べ800人、900人達成セレモニーを挙行することができた。 今後は、「ふるさと納税」と混同しないように、新たな魅力を創出しながら会員の加入維持に努めていく。	連携交流課
					実　績	248								
	94	連携交流推進事業参加者数	人	3,035	目 標 値	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	達成	109.8	平成28年度は、武蔵野市民ツアーの受入や菊池市・西米良村との住民相互交流等を行い、友好都市との交流を深めることができた。武蔵野市・三鷹市・大府市・福崎町のイベントに出店し、遠野市の特産品を販売、ＰＲすることができた。「平成・南部藩」交流事業は、「一日国替え」や「子どもサミット」会議を実施したことにより、構成市町との交流と相互理解を深めることができた。 今後も、友好都市・交流市町村と交流を継続し絆を深め、交流人口の拡大をはかり、地域の活性化につなげていく。	連携交流課
					実　績	3,293								
	95	中学生の海外派遣数	人	9	目 標 値	9	9	9	9	9	達成	100.0	アメリカ合衆国テネシー州チャタヌーガ市へ、市内中学生を９名派遣した。 海外での生活を経験し、国際的な視野を持ち、他文化・他者への理解を深めることにより、人材育成を図ることができた。 今後も、各中学校や関係する機関団体と連携を図り、継続的に事業を実施し、計画的に派遣者数を維持していく。	生涯学習スポーツ課
					実　績	9								
4 ふるさとの文化を育むまちづくり （27指標）	96	キッズ元気アップ教室参加者数（延べ人数）	人	1,573	目 標 値	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	未達成	79.9	市内13保育園と子育て支援センター「まなざし」を会場に、園児を対象とした教室を平均５回開催したが、目標には届かなかった。 今後は、各地区の子育てサークルとの連携や子育て支援センター「まなざし」での未就学児を対象とした教室を工夫し、参加者の拡大に努める。	生涯学習スポーツ課
					実　績	1,239								
	97	小学校標準学力検査偏差値	偏差値	53.8	目 標 値	53.8	53.8	53.9	53.9	53.9	概ね達成	98.1	平成28年４月に実施した小学校学力調査の結果は、目標値には１ポイント届かなかったものの概ね達成している状況である。 各校においては、本結果を基に５月に分析を行い、成果と課題を明らかにし、中学校区毎の視点に基づく授業改善の取組により改善を図っている。特に、平成28年度は、日常の授業での実践の徹底と家庭学習の充実が課題であることから、各校が共通認識、共通目標をもって共通実践できるように校長のリーダーシップのもとに取り組んだ。また、家庭学習については、各校で工夫して取組を進めるとともに学校以外の機関との連携が進むよう体制づくりを行った。	学校教育課
					実　績	52.8								
	98	中学校標準学力検査偏差値	偏差値	48.4	目 標 値	48.5	48.5	48.6	48.6	48.6	概ね達成	98.8	平成28年４月に実施した中学校学力調査の結果は、目標値には0.6ポイント届かなかったものの概ね達成している状況である。 大きな傾向として、数学に課題があり、中学１年生における指導の充実が必要である。また、家庭学習と中学校から始まる部活動との両立に課題がある。平成28年度から「特定教科集中対策事業」として数学支援員を各校へ配置し、中学1年生を中心に授業と家庭学習での支援を行った。 また、小学校同様に全教科、全学年において日常の授業での実践の徹底と家庭学習の充実が課題であることから、各校が共通認識、共通目標をもって共通実践できるように校長のリーダーシップのもとに取り組んだ。	学校教育課
					実　績	47.9								
	99	学校給食に使用する遠野産食材の割合	％	65.3	目 標 値	65.5	65.8	66.1	66.4	66.6	達成	103.2	遠野産の食材を積極的に活用し、地産地消の推進及び消費拡大を図った。今年度は、天候不良による野菜の不作と台風被害による地場産の野菜不足が影響したが、地産地消率が67.6%と目標は達成できた。 遠野まるごと給食の代わりとして、今年度から交流すまいる給食を実施し、生産者や関係者等と共食することで感謝の気持ちと食の大切さを培う機会となったほか、郷土食の継承と地域の農産物への理解を深める機会となった。	総合食育推進課
					実　績	67.6								

様式1

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 (26年度)	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成　果　・　評　価	担当課
	100	市民センター施設の利用件数（スポーツ施設除く）	人	4,657	目標値	4,050	4,050	4,050	4,050	4,050	達成	128.1	平成27年度の大規模改修後のリニューアル・国体開催の影響で、ある程度の集客効果が見られた。市内外団体・個人の会議や生涯学習など各種サークルの活動拠点として、安定した利用率となっている。 内装や室内環境が充実したことを踏まえ、施設を委託している業者と協力しながら、ホームページ等のＰＲを実施し、今後もよりよい環境づくり・施設運営に努めていく。	市民協働課
					実績	5,187								
	101	市民センター施設の利用者数（スポーツ施設除く）	人	186,011	目標値	108,000	108,000	108,000	108,000	108,000	達成	111.4	利用件数の増加に伴い目標を達成することができた。施設利用率の高い市内定期利用団体の構成員は、減少傾向にあるが、大規模改修後のリニューアルによりある程度の集客効果が見られた。 まだ認知度は低いため、施設を委託している業者と協力しながら、ホームページ等のＰＲを実施し、今後も、よりよい環境づくり・施設運営に努めていく。	市民協働課
					実績	120,311								
	102	全講座における継続的講座数	講座	5	目標値	5	5	5	5	5	達成	200.0	継続的に実施することができた講座数は10講座で、市民の生涯学習の推進を図ることができた。 今後も、市民ニーズに応えられるような講座を開設するよう、関係機関団体と連携していく。	生涯学習スポーツ課
					実績	10								
	103	市民センター・地区センター生涯学習講座の延べ受講者数	人	4,911	目標値	4,800	4,800	4,800	4,800	4,800	未達成	89.8	目標値には届かなかったが、市民センター・地区センターで生涯学習講座を実施し、市民の生涯学習の推進を図ることができた。 なお、講座を企画する際には、関係機関団体と連携し、より多くの市民が受講できるような工夫をするよう支援していく。	生涯学習スポーツ課
					実績	4,308								
	104	家庭教育講座等の延べ参加者数	人	1,558	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	達成	109.4	市内全小中学校を会場とした家庭教育講座等と、市内全域を対象とした「家庭教育講演会」を開催。児童・生徒・保護者・教職員・地域関係者等の多数の参加を得て、情報機器の使用モラルや食育講座、進路学習会、学力向上に関する講演会等を実施し、家庭教育力の向上と子どもたちの健やかな成長促進に取り組むことができた。	生涯学習スポーツ課
					実績	1,313								
	105	青年団体加入者数（累計）	人	76	目標値	80	80	83	85	85	達成	121.3	市青年団体協議会に対し補助金の交付と助言・指導等の活動支援を行い、会員の維持・確保と団体活動の活発化に努めた。 今後も、団体活動が活発かつ円滑に進むよう、各団体の動きを注視する。	生涯学習スポーツ課
					実績	97								
	106	自主事業の顧客満足度	%	85.0	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	概ね達成	98.2	自主事業として、美川憲一コンサートを開催し、鑑賞者に対してアンケートを実施した。その多くが、事業に満足しているという内容であった。 今後も、市民に満足してもらえるような自主事業を企画していく。	生涯学習スポーツ課
					実績	83.5								
	107	市民協働の芸術文化事業の参加者数	人	1,771	目標値	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	未達成	71.4	参加者数は、1,357人で目標値には届かなかったが、市民が芸術文化に親しみ、成果を発表する機会を提供することができた。 今後も、関係機関団体と連携し、より多くの市民が芸術文化に触れ、また興味を持てるような工夫をするよう団体を支援していく。	生涯学習スポーツ課
					実績	1,357								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 （26年度）	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成　果　・　評　価	担当課
	108	市民協働の芸術文化事業の鑑賞者数	人	9,792	目標値	8,770	8,770	8,770	8,770	8,770	概ね達成	93.8	人口減少が進む現状の中ではあるが、鑑賞者数は概ね達成となっている。 今後も、多くの市民の興味関心を喚起する芸術文化事業を展開し、市民の生活の質の向上に結び付けていく。	生涯学習スポーツ課
					実績	8,223								
	109	博物館入館者数	人	19,613	目標値	20,000	20,200	20,400	20,600	20,800	未達成	81.7	夏季特別展「金山繁昌 ―黄金に魅せられた人々―」や企画展「加守田章二とその弟子たち」を開催。 また、遠野町家のひなまつりに合わせた特別展「遠野のひな人形」を開催し、商工会と連携して中心市街地への集客に貢献した。 すべての事業を計画どおりに実施したが、中心市街地の入込客数が減少したことや、夏季特別展「金山繁昌-黄金に魅せられた人々-」の来館者数が昨年に比べて減少したことが要因となり未達成となった。 今後も、魅力的な特別展を実施し、ＰＲを強化して目標の達成に努める。	文化課
					実績	16,349								
	110	博物館講座等の受講者数	人	944	目標値	950	950	950	950	950	達成	119.1	特別展に合わせた講演会、ギャラリートークの開催、児童生徒を対象とした博物館教室等を計画通りに実施し目標を達成した。 今後も、郷土の歴史、文化、民俗などの学習機会を提供し、学校等と連携した事業の開催に努める。	文化課
					実績	1,131								
	111	図書館の利用者数	人	17,008	目標値	16,300	16,000	15,800	15,500	15,300	達成	110.3	本に親しむ場所を提供するため、館内で季節ごとの図書の企画展、映画会、ボランティア等による読み聞かせの活動を行いながら、利用者拡大を図った。 今後も、館内での企画展等やレファレンスサービスの充実に努め、利用しやすい、親しみやすい環境づくりに努めていく。	文化課
					実績	17,972								
	112	市民への図書貸出冊数	冊	65,905	目標値	65,200	67,200	71,100	74,400	76,500	達成	105.1	利用者の声を反映させ、図書の選書の充実、使用しやすい配架、展示案内に配慮しながら広報等を活用して読書情報を提供し、読書推進に努めた。 今後も、利用しやすい環境づくりに努める。	文化課
					実績	68,528								
	113	移動図書館車の貸出冊数	冊	11,526	目標値	11,200	11,300	11,300	11,400	11,400	達成	106.2	巡回場所、回数のあり方に配慮し、利用者の図書のリクエストに応じながら貸し出しの拡大を図った。 今後も、巡回場所、回数の利用状況を把握しながら、貸し出しの拡大及び読書の普及に努める。	文化課
					実績	11,899								
	114	学校図書館・児童館への貸出冊数	冊	20,930	目標値	20,900	21,100	21,200	21,400	21,500	達成	100.1	学校の図書室との連携を図りながら、図書の選書、読書ボランティアによる読み聞かせ活動の協力など読書活動の充実を図った。また、小中学校及び児童館への図書貸出を行うなど、読書推進を図ることが出来た。 今後も、連携しながら図書の充実、読書の推進に努める。	文化課
					実績	20,930								
	115	指定文化財説明板設置件数（累計）	基	88	目標値	90	91	92	93	94	達成	103.3	市指定文化財説明板２基（更新１基、新設１基）、国登録文化財説明板１基の新設により目標を達成した。劣化しにくい指定文化財説明板を設置し、市民の文化財に対する理解と保護啓発に努めた。 今後も、老朽化した標柱、説明板の更新を行うとともに、未設置となっている指定文化財の説明板を新設し、周知と啓発に努めていく。	文化課
					実績	93								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標 指標名	単位	現状 （26年度）	年度別目標と実績 区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	28年度 達成状況	達成率	成　果　・　評　価	担当課
	116	民俗芸能の映像記録件数（累計）	件	22	目 標 値	24	25	26	27	28	達成	100.0	郷土芸能の保存継承のため、映像記録を計画に通り製作し目標を達成した。 これまでに記録した資料を適切に管理保存していくとともに、未記録の郷土芸能について映像記録作成を継続して保存継承に努めていく。	文化課
					実　　績	24								
	117	遠野遺産推薦件数	件	141	目 標 値	144	145	146	147	148	達成	103.5	推薦された新たな６件（新里の愛宕神社、卯子酉神社、程洞稲荷神社、長岡大日神社、鷹鳥屋獅子踊り、下同心丁枡形と法華題目の碑）を遠野遺産として認定し目標を達成した。 今後も、表示板の設置や公式ガイドブックの配布等により周知しながら、新たな遺産の掘り起こしに努め、文化的資産の保護を通じて郷土愛の醸成と地域づくりを推進していく。	文化課
					実　　績	149								
	118	遠野遺産保護活用活動実施割合（実施団体数／認定件数）	%	－	目 標 値	60	60	60	60	60	達成	166.7	遠野遺産145件の推薦団体に対してアンケート調査を実施し、全ての遠野遺産で保護活動が行われ、認定後も地域の宝として保護されていると確認された。 今後も、定期的にアンケート調査を実施して保護活動を見守るとともに、遠野遺産認定制度の課題等の把握に努めていく。	文化課
					実　　績	100								
	119	遠野文化研究センター活動の参加者	人	768	目 標 値	400	400	400	400	400	達成	206.8	平成28年度は、遠野文化フォーラム「遠野物語の新時代」や特別講演「危機と日本人」など発信力のあるテーマで開催した。遠野の歴史や民俗について学ぶ土曜講座（７回）では、野外や地区センターを会場にして活動の幅を広げるとともに、金曜夜の読書会「遠野古事記を読む」（11回）、昔話教室（３回）、遠野学会といった地道な学習活動を積み重ね目標を達成することができた。 今後も、遠野の文化を広く発信し、人材育成を図る。	調査研究課
					実　　績	827								
	120	遠野文化研究センター活動の参加者満足度（11段階評価）	点	－	目 標 値	6	6	6	6	6	達成	133.3	遠野文化研究センター活動の実施毎に、顧客推奨度指標11段階評価のＮＰＳ（ネット・プロモーター・スコア）による参加者アンケートを実施した結果、平均値８点の高い評価を得た。 これからも、市民のニーズを反映した参加者からの高い満足を得られる活動を展開し、郷土の文化を担う人材の育成に努める。	調査研究課
					実　　績	8								
	121	遠野こだわりの「語り部」認定者数	人	710	目 標 値	800	850	900	950	1000	達成	104.6	平成28年度は、昔話２人、子ども語り部37人、食５人、生業１人の合計45人を認定し、目標を達成することができた。 特に、子ども語り部については、学校との連携を図りながら取り組むことができた。認定語り部のためのスキルアップセミナーなどを通じて研修の機会と場を提供した。 今後も、学校や地域団体などと連携しながら語り部の認定を行い、研修の機会と場を提供しながら、遠野の「語り」の文化を次代に継承していく。	調査研究課
					実　　績	837								
	122	市史編さん事業進捗率（①市史編さん委員会開催、②資料収集・調査、③刊行のための実務作業、④教育普及・広報）	%	－	目 標 値	100	100	100	100	100	達成	100.0	「永遠の日本のふるさと遠野」として後世に引き継ぐべき資料を収集整理しながら、遠野の歴史・文化を総合的にまとめるため市史編さんを行う。平成31年度「現代編」、平成38年度「通史編」、平成39年度「民俗編」の刊行を目指し、各年度の事業進捗率を①市史編さん委員会開催、②資料収集・調査、③刊行のための実務作業、④教育普及・広報の４項目をすべて実施した場合、100％（１項目25％）と設定した。 ①市史編さん委員会（２回）開催。 ②資料収集・調査（現代編担当調査研究員の会議及び資料収集17回、古文書担当調査研究員解読会20回、遠野南部家資料調査２回、通史編に関する調査７回、現代編に関する調査１回）実施。 ③刊行のための実務作業を実施。 ④教育普及（市史編さん講座１回、古文書講座６回、古文書整理ボランティア活動９回）実施し、遠野広報で活動を周知した。 以上の４項目を実施したことで、平成28年度は事業進捗率100%を達成した。これからも、市民協働で市史編さん事業を着実に進めていく。	市史編さん室
					実　　績	100								

様式１

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成　果　・　評　価	担当課
		指標名	単位	(26年度)	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
5 みんなで考え支え合うまちづくり （13指標）	123	市内河川清掃参加者数	人	7, 590	目標値	7, 540	7, 470	7, 400	7, 320	7, 250	概ね達成	94. 8	参加者数は昨年度に比べ、一般が281人減少し総数で252人の減少（H27年度は7, 400人）となったが、児童生徒は29人の増加となった。高齢化により参加困難な高齢者のみの世帯が増加傾向にあるため、一般は減少したが地域活動への参加意識は高く、児童生徒も積極的に参加し多くの住民協力により実施することができた。	環境課
					実績	7, 148								
	124	道路環境整備参加者数（延べ人数）	人	14, 465	目標値	12, 950	12, 950	12, 950	12, 950	12, 950	達成	136. 3	目標値を4, 696人上回る参加者で、市道の草刈作業、道路沿いの花壇の整備、冬季間の除雪作業のほか、小中学生によるごみ拾いなど多岐にわたる環境整備活動を実施し、住民協力のもと地域環境美化への取組が行われた。	環境課
					実績	17, 646								
	125	みんなで築くふるさと遠野推進事業実施数	事業	63	目標値	65	65	65	65	65	達成	103. 1	補助金交付56件、実施事業67事業のうち26事業が新規事業であり、300万円を上限とする地区まちづくり一括交付型モデル事業（モデル事業のなかで12事業を一体的に実施）のなかで、高齢者等見守りや買物・交通安全弱者支援など、新たな事業への取組が進められた。 今後も、地域住民の意見要望等を取り入れつつ見直しを行い、地域課題解決に向けた制度整備に取り組んでいく。	市民協働課
					実績	67								
	126	みんなで築くふるさと遠野推進事業参画者数	人	1, 654	目標値	1, 600	1, 600	1, 600	1, 600	1, 600	達成	123. 6	新たな補助対象事業メニューとして「地区まちづくり一括交付型モデル事業」及び「住民自治推進事業」を実施したことに伴い、新たな参画者が加わり目標を達成することができた。地域課題を「住民が自ら考え、判断し、実践・解決する」住民自治の取組意識が醸成された。 今後も、モデル事業地区を拡大し、新たな地域づくりへの取組を推進していく。	市民協働課
					実績	1, 977								
	127	各委員、協議会の女性参画率	%	27. 0	目標値	27. 6	28. 2	28. 8	29. 4	30. 0	達成	102. 9	条例等で設置されている４つの審議会等において女性委員の登用人数が増えたことと、新たに調査対象となった審議会等において女性委員登用率が高かったことにより目標値を達成することができた。 後期５か年中も女性参画率が伸びるよう女性委員の登用を呼び掛けるとともに、女性活躍に対する理解が進むよう「男女共同参画」の啓発に努めていく。	生涯学習スポーツ課
					実績	28. 4								
	128	市長と語ろう会参加者数	人	0	目標値	300	300	300	300	300	達成	123. 3	遠野スタイルによるまちづくりを推進することを目的に、地区別懇談会とテーマ別懇談会を開催した。地区別懇談会では、これまでの地区センター単位の開催から、高齢化率の高い地域など小規模な自治会や集落など18地区で開催した。また、テーマ別懇談会では、「農業」「子育て」「福祉」をテーマに開催したほか、中高校生との意見交換会も開催した。 自治会単位での開催やテーマを設定しての開催にしたことにより、新たな参加者も多かったことから、今後も、幅広い年齢層と懇談できるよう努めていく。	政策推進担当
					実績	370								
	129	経営改革大綱実行計画の達成率	%	77. 1	目標値	80. 0	80. 0	90. 0	90. 0	100. 0	達成	110. 0	市民、行政、第三セクター・企業等がそれぞれに役割を担うことで課題を解決する「地域総合力」の強化を図るため、「行政内部の体制と業務の見直し」「第三セクター等の経営体強化」「人づくり」に視点を置き取り組んだ。 「第三セクター等の経営体強化」には、行政を含めた関係団体の連携と戦略的な展開が必要であるため、外部専門家等の意見を取り入れ、今後段階的に改革を実行する。 また、「人づくり」には継続が必要であり、特に、話し合いと実行の繰り返しによる地域づくりの実践者の育成や、児童・生徒への地域の理解や市政への参画の場の提供による地域の担い手育成を行っていく。	政策推進担当
					実績	88. 0								
	130	国土調査進捗率	%	84. 21	目標値	85. 90	86. 29	86. 50	87. 34	88. 23	達成	100. 0	平成28年度は調査面積5. 75k㎡を実施した。山の境界の不明確化が進んでおり、山間部を優先し調査を推進する。	建設課
					実績	85. 90								

第２次遠野市総合計画前期基本計画（H28～32年）　平成28年度まちづくり指標実績

大綱	No.	まちづくり指標		現状	年度別目標と実績						28年度		成　果　・　評　価	担当課
		指標名	単位	（26年度）	区分	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	達成状況	達成率		
	131	市税等の収納率（現年分）	％	97.46	目 標 値	97.48	97.49	97.50	97.51	97.52	達成	100.1	遠野市市税等収納対策本部本部員会議で決定した「収納対策プロジェクトの取組み」である公金担当関係課による催告書の共同発送、共同発送の翌月を徴収強化期間として電話催告や訪問催告の実施、また、税務課窓口の納付啓発ディスプレイやチラシ・広報配布に加え、市税で新たに開始したコンビニ収納を通じた納税機会の拡大・納税者の利便性確保により、目標値を0.12ポイント上回ることができた。 今後も、引き続き公金担当関係課での情報共有及び連携しながら、時期を捉えた催告に日ごろからの啓発を交えた活動と積極的な滞納処分に取り組み、より一層の収納率の向上に結びつける。	税務課
					実　　績	97.60								
	132	経常収支比率（普通会計）	％	83.2	目 標 値	87.0	87.0	87.0	86.9	86.8	概ね達成	94.0	財政の健全化を示す「経常収支比率」は、前年度よりも 5.5ポイント高い92.6%という結果となった。 同比率を導き出す経常的経費に係る一般財源は、前年度と比べ約 6,000万円節約することができたが、歳入の約４割に当たる地方交付税のうち、同比率に大きく影響を与える普通交付税が、国勢調査人口の減少により前年度よりも約４億 8,000万円減少。さらには、市税も前年度よりも約 7,000万円減少したため、同比率を大きく伸ばすこととなった。 平成30年度には、市役所本庁舎整備に係る借入金の返済が始まることから、経常的な経費のより一層の削減に務めていかなければならない。しかし、景気動向による物価上昇も見られ、予算編成における経費削減だけではかなり対応が厳しい状況にあり、これまで以上の対策を講じる必要がある。	財政担当
					実　　績	92.6								
	133	実質公債比率（普通会計）	％	11.2	目 標 値	13.0	13.0	12.7	12.0	12.0	概ね達成	96.3	本市の財政規模に対し、地方交付税による国からの支援分を差引いた実質的な借入金返済の負担割合を示す「実質公債費比率」は、前年度よりも 2.1ポイント高い13.5%となった。 最終年度となった平成27年度に合併特例債を活用して整備した市民センター大規模改修や遠野西中学校プール整備などの借入金の返済が始まったこと、これまで元金の返済を据え置いていた平成23年度整備の産直かみごうやキャトルセンターに係る借入金の返済が本格的に始まったこと、木質バイオマスエネルギー活用推進事業に係る債務負担行為額約２億円が平成28年度まで続いたことが大きな要因として挙げられる。 今後は、現在整備中の市役所本庁舎に係る借入金の返済が平成30年度以降始まるものの、大規模な建設事業を予定していないことから、年々減少していくものと捉えている。	財政担当
					実　　績	13.5								
	134	市民一人当たりの借入金残高	千円	477	目 標 値	507	476	447	419	407	達成	114.4	第３次遠野市健全財政５カ年計画に基づき借入れるお金よりも返済するお金を多くした結果、市民一人当たりの借入金残高は、目標値よりも64千円低い 443千円（前年度比▲24千円）となった。 なお、ソフト事業や財源を補てんするための借入金を除いた建設事業充当借入金残高の総額は124億5,614万円となっている。実績値は、この残高を平成29年３月末現在の住民基本台帳人口28,098人で割り返した数値である。	財政担当
					実　　績	443								
	135	市職員数	人	373	目 標 値	363	360	356	353	351	達成	103.4	第１次及び第２次定員管理計画（平成18年度～平成27年度）の確実な実行により、計画より12人前倒しとなる職員数の縮減となっている。 今後も、第３次定員管理計画（平成28年度～平成32年度）に基づき、適正な定員管理に努めていく。	総務課
					実　　績	351								